

# わたしの好きな よりの

No.145

皆さんは風布地内にある、「浦高百年の森」をご存知ですか？ この森は、風布の葉原峠の下、標高約450メートルの東向きの緩やかな斜面に位置し、埼玉県立浦高等学校の同窓会が中心となり、森づくりを進めています。

今回はこの森の中を走る林道から、東側に見える景色を皆さんにご紹介します。

この場所では、晴れた日には、寄居の町のみならず、遠くは筑波山までも眺めることができます。また、夜になると、幻想的な夜景が眼下に広がり、昼間とは違った



森田 壽さん  
(風布)

景色を楽しむことができます。そんな中で、私の一番のお勧めが、“朝日”です。まだ薄暗い中、太陽が光を荒川に反射させながら、徐々に浮かび上がっていく光景は、太陽の雄大さを感じることができ、とても爽快な気分になります。これからは新緑が眩しい季節になります。少し早起きをして、“緑”と“朝日”を楽しみに出かけてみませんか。

## <百年の森から望む朝日>



## わが町の



民話の達人

No.14



坂本時次さん (本町)

民話は人々の暮らしの中から発生し、語りつがれてきた説話です。たくさんの人々の思いが込められた民話から、多くのことを感じとることができるのではないのでしょうか。

今回は、私が生まれ育った秩父市と現在住んでいる寄居町の両方に関係する民話を紹介したいと思います。

戦国時代の頃、秩父地方には鉢形

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

城の出城がいくつかありました。これは、甲斐の武田軍が攻め込んでくるのを防ぐためにつくられたものです。例えば、樋口駅から野上駅へ進んでいくと、左手の山頂に城が見えます。これが天神山城です。麓に天神様が祀られているので、この山を天神山と呼んでいます。

このようにいくつかある出城の中に、日尾城という城がありました。この城も、甲斐の武田軍に対抗するための第一線にある城でした。ある時に武田軍が大挙して押し寄せてきましたが、城主の諏訪部遠江守は昼間から酒を飲んで酔っ払っていました。そして瞬く間に殺されてしまったのです。その時に、あわてる味方を鎮めて指揮をとったのが奥方でした。そして見事に武田軍を撃退させるのでした。

それから後に、奥方は尼となり、戦死した夫を弔ったそうです。今でもこの地方では奥方を婦人の鑑として語り伝えているそうです。

婦人に関する話というと、次のようなものもあります。

鉢形城が豊臣軍に敗れた時の話で

す。敗北し、落人となって秩父方面に逃げていく人々がたくさんいましたが、その中に妻と乳呑み児を連れて逃げる若い武士がいました。彼は敵に発見されそうになった時に、ケシの畑の中に妻子を隠して立ち向かいましたが、結局は討たれてしまいました。

一方、隠れていた妻子はそのままやりすごそうとしましたが、突然子どもが泣き出し、発見されてしまうのでした。「子どもだけは助けて！」との哀願もむなしく、結局、妻子ともども討たれてしまうのでした。里人はこれを哀れんで、「乳子の宮」をつくりました。

これは今も小鹿野地方の畑の中にひっそりとたっています。



山田えいじ画